

振り返り…君は「挑戦（チャレンジ）」したか！

校長 齋藤 裕

今年度のキーワードは「挑戦（チャレンジ）」でした。コロナ禍で中止になった活動が多かったこの3年。我慢が多かった3年。しかしながら、今年度からは今まで取りやめていたものを再開し、縮小していたものを拡大して実施してきました。生徒の皆さんはこの2年間やっていなかったものを実施するわけですから、初めての体験ということになりました。4月からこの3月まで生徒の皆さんがどの程度成長したかを分析するため、今回は、「成長」について考えてみました。

「成長とは何か」自分の言葉で定義せよ 知見録HP から
その1

成長には、「技術的な成長」と「精神的な成長」がある。技術的な成長は、「円熟」を生み出す。技術的な成長を見る視点としては、ものごとの「上手か下手か」がポイントになる。しかし、人は技術的な成長だけでは本当に次元の高いことを成し遂げることはできない。もう一方の精神的な成長が重要になるのである。精神的な成長を持っている人は、物事に取り組むときに気分的な「楽しい」ではなく、意志的な「楽しい」になっているので、多少のしんどさや苦勞に耐える粘りを持つことができる。つまり、「しんどいけど楽しい」「厳しいけど、やりがいがある」という意識で物事に耐えられるということになる。

その2

成長とは、リスクを負って殻を破ったときに得られる「よろこび」「満足」といった収穫物である。そのことを表した日本の伝統芸能の世界では、「守・破・離」と言い、道を究めるための成長段階を示したものとなっている。

「守」師からの教えに忠実に学び、型や作法、知識の基本を習得する第一段階。

「破」経験と鍛錬を重ね、師の教えを土台としながらも、それを打ち破るように自分なりのやり方を会得する第二段階

「離」これまで教わった型や知識に一切とらわれることなく、思うがままに至芸に飛躍する第三段階

後にいくほど難度・リスク度は高くなり、その分成長も大きくなる。

その3

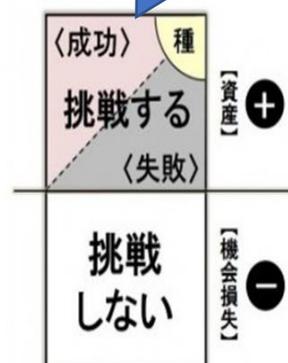
挑戦して失敗することも立派な成長である。成功の反対語は失敗ではない。「挑戦しなかった」ことである。

何かに挑戦する。その時点で、人は成長を手に入

れている。成功すればもちろん技術の習得や経験知、自信、人とのつながりなどを得ることができたはずだし、仮に失敗したとしても、やはり経験値を得ている。

成功するにせよ、失敗するにせよ、いったん挑戦すれば、いろいろなものが自分の財産として貯まる。そこには同時に次の挑戦の「種」が宿される。そしてまた挑戦に向かう。すると、また新しい自分の財産がたまり、次の「種」が宿される。そしてまた挑戦する…この繰り返しが、成長しつづける「上り階段」となる。

「挑戦（チャレンジ）」
この一年をしっかりと
振り返り、4月からの
新たな挑戦に生かそう！



☑ 「成功」の反対語は、「失敗」ではない。「挑戦しなかったこと」である。

☑ 「失敗」したとしても経験知という名の資産が得られる。

☑ 成功するにせよ失敗するにせよいったん挑戦すればそこには次の挑戦と成功の「種」が宿っている。

今年度も残りわずかになりました。今年一年多くの教育活動を実施することができたのは何よりご家庭のご協力があったのものでした。感謝申し上げますとともに来年度も引き続きよろしく願っています。

【部活動戦績等 2月・他】

◆ バドミントン部 ◆

◎多摩市中学生バドミントン冬季学年別大会
令和5年2月19日 会場：落合中学校
ダブルス戦 井坂 彩・岡田 知夏ペア 第3位
シングルス戦 田中 梨沙 第3位

◆ 薬物乱用防止ポスター 2年・3年 ◆

- ・地区会長賞 岡田 知夏
- ・佳作 山元 結暖・川島 幹大
- ・特別賞 栗原 明里・勝呂 柚・武内 優奈
- ・特別賞 源 唯希・川ノ口 悠・高橋 友香

◆ 社会を明るくする運動作文コンテスト ◆

- ・優秀賞 土肥 奈緒
- ・多摩分区長賞 井坂 彩・佐藤 風我・辻 春花
令和5年2月13日

日野・多摩・稲城地区保護司会

◆ 中学生の「税についての作文」 3年 ◆

- ・東京国税局長賞
「思いやりの気持ち、その先に」 萩田 愛子
- ・南多摩納税貯蓄組合連合会 優秀賞
「私の、日本の、世界の、バイタリティ」
綿谷 佳雅里

◆令和4年度第72回東京都公立学校美術展覧会◆

場所 東京都美術館（台東区上野公園内）
令和5年2月14日（火）～19日（日）

- ・遠藤 咲玖耶<音のカタチ>
- ・宮澤 凜 <LOVE&PEACE!!>

◆ 東京都書初紙上展 出展 ◆

- ・安部 碧・萩田 愛子・綿谷 佳雅里

- 1年 川口 愛華
笑顔咲く あなたの明るい 挨拶で
- 2年 安納 優唯
ハッピーは 笑顔からくる 元気の芽
- 3年 山本 悠風斗
挨拶は みんなに配る 宝物



<連合図画工作・美術展出品作品、パルテノン多摩>
令和5年1月28日（土）～2月2日（木）



多摩市子どもみらい会議
1月27日（金）
会場：多摩永山中体育館
生徒会役員3名が参加
全体司会（辻 春花・綿谷 明日陽）話し合いリーダー（勝呂 柚）

【辻 春花】 子どもみらい会議の大切さ
今回、私が子どもみらい会議に参加させていただき、参加したからこそ、改めて会議の重要性や役割を実感しました。

この会議の主な目的は「2050年の多摩市のために私たちにできごと」をテーマに、参加する生徒がESDの取り組みを発表、持続可能なまちづくりに向けたメッセージを決め、発信することです。

今年度は8校の代表生徒が集まり、プレゼンや話し合いを行いました。意見交換の時間は、活発に発言し合い、「魅力となる建造物や環境の整備、パンフレット、マスコットキャラクターを作って多摩市の魅力をもっと伝えることで、持続可能な街を作ろう！」というメッセージを決めることができました。

これに加えて、私が思う会議の役割は交流です。なぜなら、学校内では、総合の時間で、生徒同士が話し合う場はたくさんありますが、他校の生徒と意見交換する機会はないからです。教育委員会の方や市長なども含め、普段、交流がない人と会議をすることは、多摩市をよりよくするためには必要不可欠です。

今回、この会議に参加した生徒のほとんどが、初めての大きな会議への参加でした。ですが、各学校、一生懸命会議の準備やプレゼンの練習をし、多くの方の力を借り、とてもやりがいのある会議になりました。そして、私は、子どもみらい会議で学んだことを発信し、より良い多摩市を皆でつくれたら良いと思いました。



<1/7 永山地区>



<1/14 瓜生地区>

どんど焼き、永山地区は、初めて永山小学校校庭で、瓜生地区は、小雨の中、瓜生太鼓は、体育館内で披露され、傘を差しながらの点火となりました。



生徒会企画「学校を明るくする標語コンテスト」。全校生徒の中から投票で各学年1名の標語を採用しました。

【勝呂 柚】

多摩市子どもみらい会議は、グループディスカッションなどをメインにして、中学校を中心にそれぞれの地区でESDについて話し合いをする会議です。

私は今まであまり自分を中心に進行する機会がなかったもので、とても緊張していました。相当練習を重ねていても、本番には何が起るかわからない、そんな不安も残した中で発表や会議を進めることがなかなか私にはできていませんでした。さらにあまりデータがなかったのでイメージを掴むことができず、進行をしていくことはとても難しかったです。

その反省点として、内容が掴めないなりに、ひとつひとつの行動を見直し、話の進め方などをしっかり考慮していくべきだったなどと思いました。他にも、出そうな話題などを予想できていたら、もっと円滑に会議を進めることができたのではないかなと思います。

沢山の大人や先生方に支えられて行えた今回の会議。身近な学校のESDについての考え方やその活動に向けての目標、様々な自分の課題などが学べたとても良い機会でした。今回の会議は、これから受験などの面接や就職の際に活用できる面が数多くあります。この体験や反省を活かし、今後の生活に役立てていきたいと思っています。

【綿谷 明日陽】

私は、まず生徒会、学校の代表として、この会議に参加させていただき、とても嬉しく感じています。

そして、この会議は一人ひとりの私たちのような子どもの意見も、多摩市全体を変えるものに繋がっているのだと実感できた良い機会となりました。その感情を皆さんに伝えるため、子どもみらい会議について書こうと思います。

2年生の先輩方も書かれている通り、子どもみらい会議では各学校の代表生徒が集まり、どうすればより良いまちづくりをしていけるかということ、現状と課題点から考え話し合いました。一番印象的だったのは、「多摩市のことをあまり知られていない」という問題です。皆さんはどのような改善策を考えますか。もし、答えが出せなかったとしても私は、今こうして多摩市の「より良い」を求めて考えることこそが、豊かさを膨らませる土台になるのだらうと、会議を通して思いました。

改めて、このような機会をいただけて、本当にありがとうございました。

◎1月16日(月)～20日(金)の5日間、多目的ホールにて永光祭展示の部を開催いたしました。5日間で、1年65名、2年52名、3年59名、合計176名の方々にお越しいただきました。また、お世話になっている地域の方々や永山小学校、瓜生小学校の児童の皆様や引率の先生方にもお越しいただきました。ありがとうございました。保護者の皆様のご感想を一部抜粋してご紹介いたします。

・各学年、特色のある展示は見ごたえがありました。修学旅行のキャッチコピーは、本物の広告?と思うような力作もあり、楽しく拝見しました。家庭科部の京いも、チンゲンサイ、野沢菜を購入し、京いもは、今晚早々にいただきました。癖がなく、ねっとりりと甘く、家族みんなが美味しい!と競って食べました。ありがとうございました。(1年保護者)

・色々な作品があり、個性や熱心に取り組む姿が想像できる作品展でした。知っている生徒の作品は、その子のことを考えながら見るのもまた楽しかったです。(2年保護者)

・今年も力作揃いでした。牛乳パックは、コンセプトが様々で、また、カラフルなものが多くて楽しめました。想像の生物は、かわいいもの、まがまがしいものもあって良かったです。布絵本は、しかけも楽しく、しっかり作られていたと思います。修学旅行のキャッチコピーは、実際に行った経験が生かされていて京都に行きたくなりました。書写の心の叫びも面白かったです。レベルの高さもさすが3年生でした。(3年保護者)

◎学校評価保護者の皆様から頂いたご意見一部抜粋

・学校外で制服のままスマートフォンを使用したり、通行の妨げになるような場所で広がって話している様子が見受けられる。ルールを守る子供にしてみても堪らないと思います。

・標準服登校への転換をご決断いただきたいと強く希望します。

・学校から通知されるメールやLINEの文面が、とても分かりにくい。

・部活顧問の指導が気になる。お前呼びや罵声が酷かった。

・授業直後や部活前に、気軽に勉強の分からない所を聞けない。

・水曜日に部活に参加する際の再登校について改善をお願いしたいです。できれば毎回学校で待機できるような方法をご検討頂きたいと思います。

・部活に外部コーチを入れることも検討してほしい。

・定期テストの平均点がとても低い時があり、低いテストは生徒のやる気を低下させるのではないかとすることがあります。

・この一年、できる限り子ども達の日常を取り戻せるようにしていただきありがとうございます。中学校でダイバーシティ&インクルージョンのような授業はやってもらえないのでしょうか?多様性を認め合うところを育てるためには、マイノリティの人達の事を知ってもらいたいです。

・水泳の授業で、中学生はバタフライができて当たり前と言われたらしいが、それは有り得ない。バタフライは小学校でもやらない。水泳を習っていない限りはバタフライもターンもできるわけがない。

※忌憚のないご意見本当にありがとうございました。一人ひとりの保護者様のご意見を真摯に受け止め改善してまいります。

